

特⁴²

456

松山鏡

訂正
觀世流語外
松山鏡

50

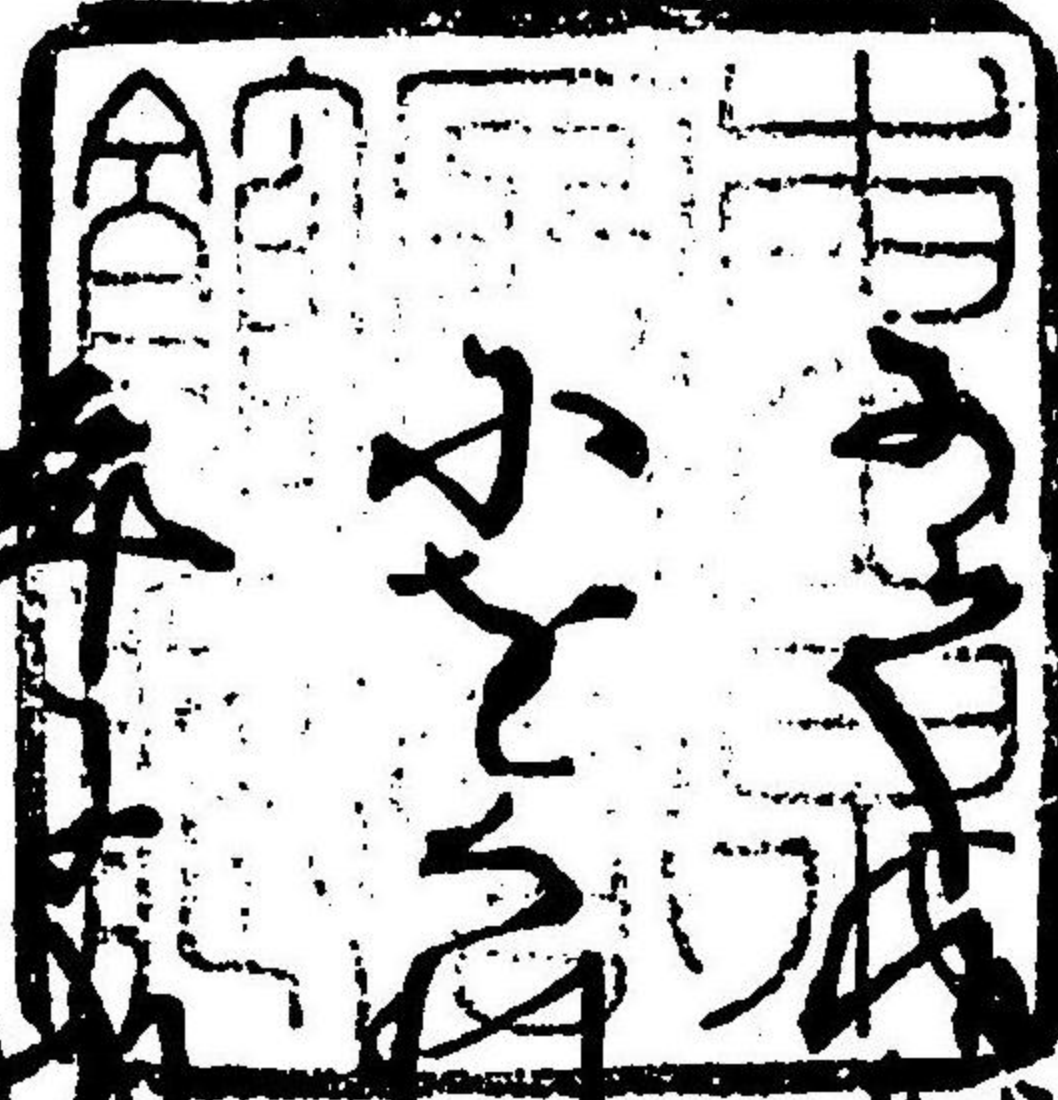
松山鏡



早稻
是の趣及由松乃山家信者は

あまの御魂と日事うへさしむる書

ふとら何れ日きまらぬ中へるがわ三



年と海とくはふとら形見の婚とて入

物とくはう飾りて母うらふと歎の信ま

だいら屋と作り行原は巻てふと目

多岐の母の日のひかり持の堂
 立出焼きもよも思の^舞舞
 雨とまゝの^舞舞したる時
 花とよも^舞舞よも^舞舞よも^舞舞
 の^舞舞の^舞舞の^舞舞の^舞舞
 まゝ母の^舞舞の^舞舞の^舞舞
 三つ^舞舞の^舞舞の^舞舞
 三つ^舞舞の^舞舞の^舞舞

けりもよも^舞舞の^舞舞の^舞舞
 か有り^舞舞の^舞舞の^舞舞
 かの^舞舞の^舞舞の^舞舞
 立ち^舞舞の^舞舞の^舞舞
 よも^舞舞の^舞舞の^舞舞
 あり^舞舞の^舞舞の^舞舞
 あり^舞舞の^舞舞の^舞舞

本巻

まぢりし可しあし今我を女わもて
たりの屋を作らむ我が母の父の
まぢりし可しあし今我を女わもて
たりの屋を作らむ我が母の父の
まぢりし可しあし今我を女わもて
たりの屋を作らむ我が母の父の
まぢりし可しあし今我を女わもて
たりの屋を作らむ我が母の父の
まぢりし可しあし今我を女わもて
たりの屋を作らむ我が母の父の

作らむ我が母の父の
まぢりし可しあし今我を女わもて
たりの屋を作らむ我が母の父の
まぢりし可しあし今我を女わもて
たりの屋を作らむ我が母の父の
まぢりし可しあし今我を女わもて
たりの屋を作らむ我が母の父の
まぢりし可しあし今我を女わもて
たりの屋を作らむ我が母の父の
まぢりし可しあし今我を女わもて
たりの屋を作らむ我が母の父の

あゝとて一帯にわたる

あゝとて一帯にわたる

あゝとて一帯にわたる

あゝとて一帯にわたる

あゝとて一帯にわたる

あゝとて一帯にわたる

あゝとて一帯にわたる

あゝとて一帯にわたる

あゝとて一帯にわたる

あゝとて一帯にわたる

あゝとて一帯にわたる

あゝとて一帯にわたる

あゝとて一帯にわたる

あゝとて一帯にわたる

入道の御書に云く
 一に云く
 但し
 武帝の書に云く
 了俊卿の書に云く
 此の書と耳泉殿の壁より
 言教の書に云く

此の書に云く
 一に云く
 仙のついでに
 と教のついでに
 限のついでに
 一に云く
 一に云く
 一に云く

うちにおち乃母まへに給ひてあり
 ちかひに又我印乃武皇帝の后
 ぎの皇太后もあつせ給ひては。是の
 まじりの河別事成也。この世に梵天
 へ新標し給へとも。圖王傳の事。玉
 乃豊子のまじり。一度は豊子のまじり
 行ひてまじり。まじり。まじり。まじり。

まじり。まじり。まじり。まじり。まじり。
 母を娘よ名疎と云く情まじり。母
 ちかひ。また。また。また。また。また。
 鏡よ。か。か。か。か。か。か。か。か。か。か。
 鏡よ。母。母。母。母。母。母。母。母。母。母。
 鏡よ。母。母。母。母。母。母。母。母。母。母。

よげんく助女に事か申そ
 引取りもあまは母もあまを
 男の隔く山鳥の豊よはせ給ふ
 うと鏡のあつらふ居たり
 あやぐれ織子あまの油よ
 書よのさかぬあまの
 意夜のみさあまの

が父のあまの
 よまの親のあまの
 夢のあまの
 てまのあまの
 甲屋のあまの鏡あまの社母よ
 ち我影よあまの
 ちあまの切のあまの

父の心は
 母の心は
 父の心は
 母の心は
 父の心は
 母の心は
 父の心は
 母の心は
 父の心は
 母の心は

父の心は
 母の心は
 父の心は
 母の心は
 父の心は
 母の心は
 父の心は
 母の心は
 父の心は
 母の心は

